



マナビィつうしん

令和2年12月25日(金)

社会 教育

子どもは社会全体で育てていく

令和2年度学社連携・協働フォーラムの講演動画から

令和2年度学社連携・協働フォーラムは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ネット視聴というかたちで開催しました。12月4日より配信している講師の西祐樹さんの講演動画を190名の方から視聴希望いただき、その後、たくさんの感想が寄せられました。講演の概要と感想をご紹介します。

演題 「地域とともにある学校づくり、その可能性について」

講師 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 地域学習推進係

係長 西 祐樹さん



◇なぜ、地域と学校が連携・協働するのか



- 社会に開かれた教育課程の実現には、地域と学校の連携・協働が必要。
- 「あの人のようになりたい」教師には、子どもたちと社会人を引き合わせる役割がある。
- 地域も学校も同じ方向を向き、それぞれに子どもを育む当事者意識が必要。コロナ禍だからこそ、学校が願っているのではなく、地域が提案し地域が動きたい。

「学校の提案を協議会で検討し意見を言う」「協議会の質問に学校が答える」そんな学校運営協議会になりがちで、その理由が「当事者意識」の有無であるという指摘に納得です。学校側がまず意識を変えなければいけない。そうすれば地域との「教育目標の創造」につながると感じました。
(学校職員)

学校の要望に応える活動ではなく、学校と地域で創り上げる活動に変わっていくことが大切であると思いました。

教師の役割の一つに児童生徒と(地域の)社会人を出会わせることが、キャリア意識の育成に役立つところは、とても納得いきました。(学校職員)

◇当事者意識



- 地域と学校が、ともに目標をつくることで、それぞれが子どもを育む当事者となる。学校がつくったものに「OK」や「BAD」を出すのではなく「Let's」になる。
- 子どもを育む取組に関わる地域の大人も「学びがある」と実感することで、当事者意識を高めていく。

未来を担う子どもたちを育てるために、地域やPTAも積極的に学校と協働しながら、豊かな内面を育てていくことは、今の時代にとっても大事なことと感じました。忙しい家庭の状況で、どこまで参加できるのか、理解が得られるのか探っていきたい。(PTA)

CSIに関わって数年たちますが、自分がお話いただいたように携わってこなかったこと、自責の念にさいなまれている感じでした。これからの「おらの学校」の認識を強くもちました。
(社会教育委員)

「CSIによって、子どもが変わり、学校が変わり、地域の方が元気になる」というお話をお聞きし、自分も地域コーディネーターとして、少しでもそのような化学変化を起こすお手伝いをしたいと感じました。現状はまだまだ遠い道のりですが、無理なく前進したいです。
(学校支援活動関係者)

注:CSI=コミュニティスクール

◇行政職員の参画



- 行政職員が当事者意識をもつ。学校づくり、まちづくりに主体的に関わり、施策に反映。行政と学校、地域がつながる。
- 子育て支援、不登校等の課題対応に、行政職員ならではの専門性が発揮できる。

子どもたちの地域との関わり、関心が希薄であるということと、地域が学校の教育について関心が希薄であるということが、改めて浮き彫りにされた。「当事者意識」になるような組織づくりを無理せず検討し、地域づくりの一助にしたい。

(市町村教育委員会)

◇議論しよう～目指す方向性を共有するために～



- 活動することが目的になっていないか。目標を熟議し、目標を達成するために自分が何ができるか議論する。当事者意識になっていくこのプロセスが大事。
- 学校と地域が議論し、それぞれにできることを考えて実行した結果、1,000件以上あった補導件数が、1～2件に激減！という事例も。
- 学校と地域が議論をし続けることで、教員が異動しても、持続可能な取組になる。

学校の教育活動は、地域の方々と一緒になって物事を進めていかなければ成り立たないことを実感している。しかしながら、価値観が多様化した現在、地域の方と活動に対しての共通意識や打ち合わせなどが必要である。そのためには時間が必要であるが、共に目的を達成できた時は喜びも大きいのであろう。心がけていきたい。(学校職員)

春日市のようにうまくいっているところは良いが、CSがうまく回っていない地域がどのようにうまく回るようにできるのか、どういところから立て直していけるのか知りたい。私たちの地域のCSがうまく機能していないと思うので。(PTA)

作成: 市民参加 × 教育政策 × ファシリテーション研究会



自分の地域、学校のコミュニティスクール、地域学校協働活動だけを見て、「連携・協働してるじゃん」と感じていても、西さんが教えてくれた春日市の取組や、文科省が言っている「地域と学校の連携・協働」を知ると、自分の地域、学校の地域連携・協働状況が客観的に見えてきます。「コロナ禍においても、できることをできる範囲で進めている本校は、よく地域に関わっていただけているんだな」「運営委員会が学校の報告会になっている。意識を変えないと」など、よいところはよりよく、課題については「まず、できそうなことは何だろう」と考え、取り組んでほしいと思っています。西さんが講演動画の中で話していた、「学校評価の視点を『当事者視点』にしてみる」ことも、できそうなことではないでしょうか。地域と学校の連携・協働についてご相談がありましたら、中信教育事務所生涯学習課まで、ご連絡をいただければと思います。中信教育事務所は、CS同様「Let's」の気持ちで地域、学校を支援していきます！